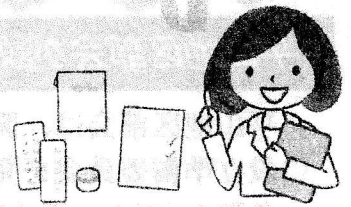


土 気 地 区

健康講演会の開催

10月13日 土気公民館で、千葉市薬剤師会 大野定行先生を講師として『正しく知ろう！薬の飲み方 一薬との上手な付き合い方』という内容で講演会が開催されました。



人間には、本来自然治癒力があり、薬には、①病気の原因を取り除く ②足りないものを補う ③症状を和らげる、症状が出るのを防ぐ ④病気を予防する ⑤病気を調べる の5つの役割があるという基本から講演は始まりました。薬は決められた量を決められた方法で飲むことが大切であることの原因についてわかりやすく説明がありました。また、高齢者は薬の副作用が起こりやすいので、体調の変化には気を付け相談をするようにというアドバイスもいただきました。最後に健康食品は薬ではなく、病気を治療するためのものではないという注意もあり、質疑応答があって講演会が終了しました。薬について、分かっているつもりで意外と基本を忘れていたということを確認できた講演会でした。

ボランティア研修会の開催

現在土気地区では19地区でサロン活動を実施しています。10月16日(水)の、ボランティア研修会では、コロナ禍でも工夫をしながら活動を再開したり、直接の対面を避けた会の運営をしたりするなど各いきいきサロンの活動の具体的な様子を話し合いました。ボランティアの方が、互いの工夫を知ることによってさらに活動を盛り上げていける研修会になりました。

椎 名 地 区

椎名小学校で福祉出前授業

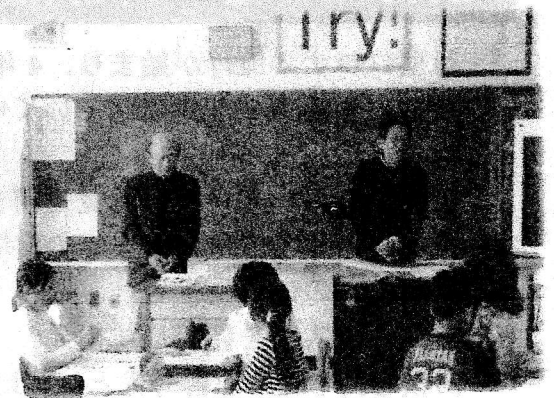
毎年、社会福祉協議会椎名地区部会では、椎名小学校の子ども達に福祉について考えてもらう福祉出前授業を実施しており、昨年11月には、3年生を対象に「ふくしてなんだろう？」というテーマで授業を行いました。

授業では、視覚障害の疑似体験として、視覚障害がある方(アイマスク着用児童)を介助者(児童)が教室内を誘導する体験や聴覚障害者とのコミュニケーション手段である手話講座を行いました。子ども達が体の不自由な人、それを支える人、それぞれの立場に立って実体験をすることで、身近な福祉について考えてもらうことができました。

さらに、地区部会の概要説明の後、ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯などを対象にした食会「ふれあい食事サービス」で、参加した皆さんが食事やおしゃべりを楽しむ様子を映像で紹介しました。

授業の終わりに子ども達に、今回の福祉授業を通しての感想を聞くと、「視覚障害の方の誘導では、声掛けが大切」、「何か困っている人がいれば何かお手伝いしたい」などの発言がありました。

今後とも、この福祉出前授業で様々な体験をすることで、他人のことを考えられる「優しさ」が子ども達に備わってくれたらと思います。



平山地区

平山地区部会が設立しました！

平山地区部会は、開発による人口増加に伴い誉田地区部会より分離するために、令和3年度に設立準備委員会を発足させました。

各町内(平山・平山第一・辺田・鎌取・市営団地・南鎌取・辺田第二・クレイドルガーデン・アグリアシティ)の9団体から役員を選出し、設立準備委員会を立ち上げました。

2か月に1回ずつの会合を経て、社協の支援を受けながら会則・予算案を作り、会員募集は、各町内会でボランティア募集の回覧板を回したり、声かけをしました。

さらに、平山地区部会なら活動できる5つの専門委員会

[①高齢者福祉 ②児童母子 ③障がい者福祉 ④ボランティア ⑤福祉ネットワーク]
を考えました。

そうして、総会資料が整ったのが3月。

令和4年に入り、4月3日に設立式と総会を開く計画でしたが、新型コロナウイルス感染症が続いていたため、総会を中止とし、紙面決議によって平山地区部会を発足させました。

令和4年度は、子育てサロンを開催したり、福祉ネットワーク新聞を発行するなど少しずつ活動を始めています。

準備委員会の発足から携わった一人として、何回も会合を開き修正しながら作り上げた予算案や名簿作成などの苦労を思うと大変感慨深いものがあります。

令和5年度こそは、対面で総会や各専門委員会の活動が活発に行えることを願っています。

ふくしとピックス

委員からの一言 (千葉市身体障害者連合会 廣田 健次)

新型コロナの流行が始まり、4年目に入った日本。

新しい生活様式が定着していく中で、障害を持った人たちの日常も、大きな変化を余儀なくされました。

視覚以外のいろいろな感覚を研ぎ澄まして歩いている目の不自由な人たちは、外出時にマスクをつけることで、いままでの環境とのずれを覚え、ストレスを感じてしまいました。

会話相手の口の動きを読み取る「口話」で、コミュニケーションを図っている耳の不自由な人たちは、マスクを装着した相手の口の動きが読み取れずに苦勞しています。

白杖を持ったり、盲導犬と一緒に歩いている人を見かけたら、見守っていただき、困っている様子であれば、積極的な声掛けをお願いします。

耳の不自由な人と話す場合、十分な距離をとれるのであればマスクを外す、または口元が透明なマスクをつけていただくなど、配慮をお願いします。

コロナ禍と言われて久しいですが、こうしたちょっとした心遣いの積み重ねで、健常者と障害者が互いに支えあい、きずなを深めていけるウィズコロナ社会を、作っていききたいものですね。